

論壇

かつての栄光が停滞生む

ある著名な経営者がよく言っていた。「成功は失敗のもと、そして失敗は成功のもと」と、と。経営の最前線での経験からくる実感なのだろう。経営がうまくいっているときに油断すると、思わぬところで足をすくわれる。だから成功の状況に油断してはいけない。これが「成功は失敗のもと」の意味だろう。そして、逆境でうまくいかない時でも、挫けずに頑張れば思わぬ突破口が見つかり、大成功につながることもある。これが「失敗は成功のもと」ということだろう。

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

経済活力と繁栄

これは企業の世界だけでなく、いろいろな分野に当てはまる。日本経済についてもそうした面がある。かつて日本経済は安定しており繁栄を謳歌してきた。30年ほど前には日本の1人当たりの所得は世界でトップクラスであり、ジャパン・アズ・ナンバードワンなどという本がハーバード大学の教授に

かつての日本の栄光が今の日本の停滞を生み出している。つまり過去の「成功」が現在の「失敗」

よって書かれた。本当に日本経済がそれほど強かったのかいろいろ意見もあるだろうが、国民の多くが日々豊かになることを実感し、日本の経済力が拡大することを確信していた。

それから30年、状況はすっかり変わってしまった。海外の多くの

東大に入ったのでそれほど頑張らなくてもある程度の良い生活ができるという気持ちがあるのだろうか。

これもその当時の話だが、私のクラスに中高を海外で過ごした帰国子女がいた。彼女の英語力は抜群で、TOEICの試験で満点であったと同級生が騒いでいた。その学生が卒業後は海外に行きたくないと言った。どうしてかと尋ねると、やっぱり日本の居心地が良いからだという。この話を聞いて少しがっかりしたことを覚えてい

「失敗」認識して「成功」へ

確かに30年前の日本は上り坂であった。終身雇用も教育制度もあの時代には合っていた。その制

度に支えられた安定と繁栄の中で、経済には活力が満ちていた。しかし、あの時代の「成功」が現在の「失敗」を生み出している。

時代が変わったのに、人々は過去の繁栄のイメージに安住している。

日本型モデルの全てを捨てる必要はない。ただ、過去の繁栄によって作られた制度に安住することは許されない。日本はもはや豊かな国ではないと認識する必要がある。もちろん、日本の多くの若者が留学生のように突然勉強に励むようになる期待できるものではないだろう。ただ、明らかになりつつある日本のさまざまな「失敗」を皆が認識することで、次の「成功」に向かって取り組む活力が出て来ることを期待したい。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。